

# 教機時国抄

弘長二年二月一〇日 四一歳

本朝沙門 日蓮 之を註す

一に教とは、釈迦如来所説の一切の経律論五千四十八卷四百八十帙。天竺に流布すること一千年、仏の滅後一千一十五年に当たって震旦国に仏経渡る。後漢の孝明皇帝永平十年丁卯より唐の玄宗皇帝開元十八年庚午に至る六百六十四歳の間は一切経渡り畢んぬ。此の一切の経律論の中に小乗・大乘・権経・実経・顕教・密教あり。此等を弁ふべし。此の名目は論師人師よりも出でず、仏説より起こる。十方世界の一切衆生一人も無く之を用ふべし。之を用ひざる者は外道と知るべきなり。阿含経を小乗と説く事は方等・般若・法華・涅槃等の諸大乘経より出でたり。法華経には「一向に小乗を説きて法華経を説かざれば仏慳貪に墮すべし」と説き給ふ。涅槃経には「一向に小乗経を用ひて仏を無常なりと云はん人は舌口中に爛るべし」云云。

二に機とは、仏教を弘むる人は必ず機根を知るべし。舍利弗尊者は金師に不浄観を教へ、浣衣の者には数息観を教ふる間、九十日を経て所化の弟子仏法を一分も覺らずして、還って邪見を起し一闍提と成り畢んぬ。仏は金師に数息観を教へ、浣衣の者に不浄観を教へたまふ。故に須臾の間に覺ることを得たり。智慧第一の舍利弗すら尚機を知らず。何に況んや末代の凡師機を知り難し。但し機を知らざる凡師は所化の弟子に一向に法華経を教ふべし。問うて云はく、無智の人の中にして此の経を説くこと莫れとの文は如何。答へて云はく、機を知るは智人の説法する事なり。又謗法の者に向かつては一向に法華経を説くべし。毒鼓の縁と成さんが為なり。例せば不軽菩薩の如し。亦智者と成るべき機と知らば必ず先づ小乗を教へ、次に権大乘を教へ、後に実大乘を教ふべし。愚者と知らば必ず先づ実大乘を教ふべし。信謗共に下種と為ればなり。

三に時とは、仏教を弘めん人は必ず時を知るべし。譬へば農人の秋冬田作るに種と地と人の功勞とは違はざれども一分も益無く還って損す、一段を作る者は少損なり、一町二町等の者は大損なり、春夏耕作すれば上中下に随って皆分々に益有るが如し。仏法も亦復是くの如し。時を知らずして法を弘むれば益無き上還って悪道に墮するなり。仏出世し給ふて必ず法華経を説かんと欲するに、縦ひ機有れども時無きが故に四十余年此の経を説きたまはず。故に経に云はく「説時未だ至らざるが故なり」等云云。仏の滅後の次の日より正法一千年は持戒の者は多く破戒の者は少なし。正法一千年の次の日より像法一千年は破戒の者は多く無戒の者は少なし。像法一千年の次の日より末法一万年は破戒の者は少なく無戒の者は多し。正法には破戒無戒を捨て、持戒の者を供養すべし。像法には無戒を捨て、破戒の者を供養すべし。末法には無戒の者を供養すること仏の如くすべし。但し法華経を謗ぜん者をば、正像末の三時に亘りて、持戒の者をも無戒の者をも破戒の者をも共に供養すべからず。供養せば必ず国に三災七難起こり必ず無間大城に墮すべきなり。法華経の行者の権経を謗するは、主君・親・師の所従・子息・弟

子等を罰するが如し。権經ごんきやうの行者の法華經を謗するは、所従・子息・弟子等の主君・親・師を罰するが如し。又当世は末法に入って二百一十余年なり。権經念仏等の時か、法華經の時か、能く能く時刻をかんが勸ふべきなり。

四に国とは、仏教は必ず国に依って之を弘むべし。国には寒国・熱国・貧国・富国・中国・辺国・大国・小国、一向ちゆうとうこく偷盜国・一向殺生国・一向不孝国等之有り。又一向小乗の国・一向大乘の国・大小兼学の国も之有り。而るに日本国は一向に小乗の国か、一向に大乘の国か、大小兼学の国か、能く能く之をかんが勸ふべし。

五に教きやう法流布ほうの先後せんごとは、未だ仏法渡らざる国には未だ仏法をき聴かざる者あり。既に仏法渡れる国には仏法を信ずる者あり。必ず先に弘まる法を知りて後の法を弘むべし。先に小乗権大乘弘まらば後に必ずじつだいじやう実大乘を弘むべし。先に実大乘弘まらば後に小乗・権大乘を弘むべからず。瓦礫がりやくを捨て、金珠こんじゆを取るべし。金珠を捨て、瓦礫なを取ること勿れな。

此の五義を知りて仏法を弘めば日本国の国師とも成るべきか。所以に法華經は一切經の中の第一の經きやうおう王なりと知るは是教を知る者なり。但し光宅こうたくの法雲ほううん・道場の慧觀えかん等は涅槃經は法華經に勝れたりと。清涼山しやうりやうざんの澄觀ちやうかん、高野こうやの弘法こうぼう等は華嚴經・大日經等は法華經に勝れたりと。嘉祥寺かじやうじの吉蔵きちぞう、慈恩寺じおんじの基法師きほつし等は般若・深密等の二經は法華經に勝れたりといふ。天台山ちやだいしの智者大師ちやだいし只一人のみ一切經の中に法華經を勝れたりと立つるのみに非ず、法華經に勝れる經之有りと云はん者を諫かんぎやう曉やせよ、止まらずば現世に舌口中ただに爛れあ後生あびは阿鼻地獄じごくに墮すべし等云云。此等の相違を能く能く之をよ弁わかへたる者は教きやうを知れる者なり。当世の千万の学者等一々之に迷へるか。若し爾らば教を知れる者之すく少なきか。教を知れる者之無ければ法華經を読む者之無し。法華經を読む者之無ければ国師となる者無きなり。国師となる者無ければ国中の諸人一切經の大小権実顕密の差別に迷ふて、一人に於ても生死を離るゝ者之無く、結句は謗法の者と成り、法に依って阿鼻地獄に墮する者は大地の微塵よりも多く、法に依って生死を離るゝ者は爪上の土よりも少なし。恐るべし恐るべし。

日本国の一切衆生かんむは桓武皇帝より已来四百余年一向に法華經の機いっこうなり。例せば靈山りやうぜん八箇年の純円じゆんえんの機なるが如し。天台大師・聖徳太子・鑑真和尚・根本てんたいだいし・せいとくだいし・かんじんわうしやう大師・安然和尚・慧心等の記に之有り是機を知れる者なり。而るに当世の学者の云はく、日本国は一向に称名念仏しょうみぶつの機なり等云云例せば舍利弗の機に迷ふて所化の衆いっせんたいを一闡提なと成せしが如し。

日本国の当世は如来の滅後二千二百一十余年、後五百歳に当たって妙法蓮華經なげう広宣流布の時刻なり。是時を知るなり。而るに日本国の当世の学者或は法華經を抛なげうちて一向に称名念仏を行じ、或は小乗の戒律えいざんを教へて叡山だいそうの大僧さげすを蔑きやうげみ、或は教外きやうげを立てゝ法華の正法を軽しむ。此等は時に迷へる者か。例せば勝意比丘しょういびくが喜根菩薩きこんぼさつを謗じ、徳光論師とくこうが弥勒菩薩みろくを蔑あなずりて阿鼻あびの大苦を招きしが如し。

日本国は一向に法華經の国なり。例せばしゃえこく舍衛国てんじくの一向に大乘なりしが如きなり。又天竺には一向に小乗の国、一向に大乘の国、大小兼学の国も之有り。日本国は一向に大乘の国なり。大乘の中にも法華經の国たるべきなり。瑜伽論・肇公記・聖德太子・伝教大師・安然等の記に之有り是国を知れる者なり。而るに当世の学者日本国の衆生に一向に小乗の戒律を授け、一向に念仏者等と成すは、譬へばほうきえじき宝器きんめいに穢食ぎょうくだらを入れたるが如し等と云云。宝器の譬は伝教大師の守護章に在り

日本国にはきんめい欽明天皇の御宇にぎょうくだら仏法百濟国より渡り始めしより、かんむ桓武天皇に至るまで二百四十余年の間此の国に小乗権大乘のみ弘め、法華經有りといえど雖も其の義未だ顯はれず。例せばしんだんこく震旦国に法華經渡って三百余年の間、法華經有りと雖も其の義未だ顯はれざりしが如し。桓武天皇の御宇にいまま伝教大師有して、小乗権大乘の義を破して法華經の実義を顯はせしより已来、又異義無く純一に法華經を信ず。設たとひ華嚴・般若・深密・阿含の大小の六宗を学する者も法華經を以てしよせん所詮なと為す。況いわんや天台真言の学者をや。何に況いかんや在家の無智の者をや。例せばこんろんざん崑崙山ほうらいざんに石無く蓬萊山けんに毒無きが如し。建仁より已来今に五十余年の間、大日・仏陀、禅宗を弘め、法然・隆りゅうかん寛淨土宗を興し、実大乘を破して権宗に付き、一切經を捨て、教外を立つ。譬へば珠を捨て、石を取り地を離れてそら空に登るが如し。此は教法流布の先後を知らざる者なり。仏誡めて云はく「あくぞう悪象あに値ふとも悪知識に値はざれ」等云云。

法華經かんじほんの勸持品に、後五百歳二千余年に当たって法華經の敵人三類有るべしと記し置きたまへり。当世は後五百歳ごごひゃくさいに当たれり。日蓮仏語じっぴの実否かんがを勸かんがふるに三類の敵人之有り。之を隠さば法華經の行者に非ず、之を顯はさば身命しんみょう定めて喪うしなはんか。法華經第四に云はく「而も此の經は如来の現在にすらなおおんしつ猶怨嫉多し。況いわんや滅度の後をや」等云云。同第五に云はく「一切世間あだ怨多くして信じ難し」と。又云はく「我身命を愛せずただ但無上道を惜しむ」と。同第六に云はく「自ら身命を惜まず」云云。涅槃經第九に云はく「譬へば王使よくだんろんの善能談論し、方便たくに巧みなる、命を他国に奉け寧ろ身命うむしを喪うしなふとも終に王の所説の言教をかく匿さざるが如し。智者も亦爾またしかなり。凡夫の中に於て身命を惜しまずしてかならず要必大乘方等を宣説すべし」云云。章安大師しょうあん釈して云はく「寧ろ身命を喪むしふとも教を匿さずとは、身は軽く法は重し、身を死して法を弘めよ」云云。此等の本文を見れば三類の敵人を顯はさずんば法華經の行者に非ず。之を顯はすは法華經の行者なり。而れども必ず身命うしなを喪しはんか。例せば獅子尊者・提婆菩薩等の如くならん云云。

二月十日

日蓮花押